見エマス

此ノ大サノ葉ガ出來上ルノニ幾日位カヽルカトイヒマスト案外早ク生長スルモノラシク、御旅屋氏ガ高岡公園ノおにばすニ就イテ同一ノ葉ヲ日々繰リカヘシ測ラレタ結果デハ、最モ早イ時ハ二十四時間ニ就キ徑 25 cm. 之ヲ一時間ニ割當テ見レバ 1 cm. 以上モ伸ビテ行クコトガ判リマシタ、マタコノ葉ガ初メテ水面ニ現ハレル時ハ、直徑六―七寸ノ椀ノヨウナ形ヲシテ居リマスガ、ソレガ水ノ表面ニ平ニ擴ガリ初メテカラ完成シタ大サニナルマデハ約九日カヽルトイフコトモ同氏ニヨッテ明カニセラレタ所デアリマス尙ホ筆者モコノ葉ノ生長ノ現象ニ就キ聊カ觀察シテ見マシガ夜ノ間モ休マズ伸ビツヾケテ行クコトヲ知リマシタ何シロ可ナリ大キナモノデスカラ一寸御紹介シテ見タ次第デスガ御序デデモアレバ上ノ十二町潟ヲ實地ニ視察スルモ面白イコトヽ思ヒマス

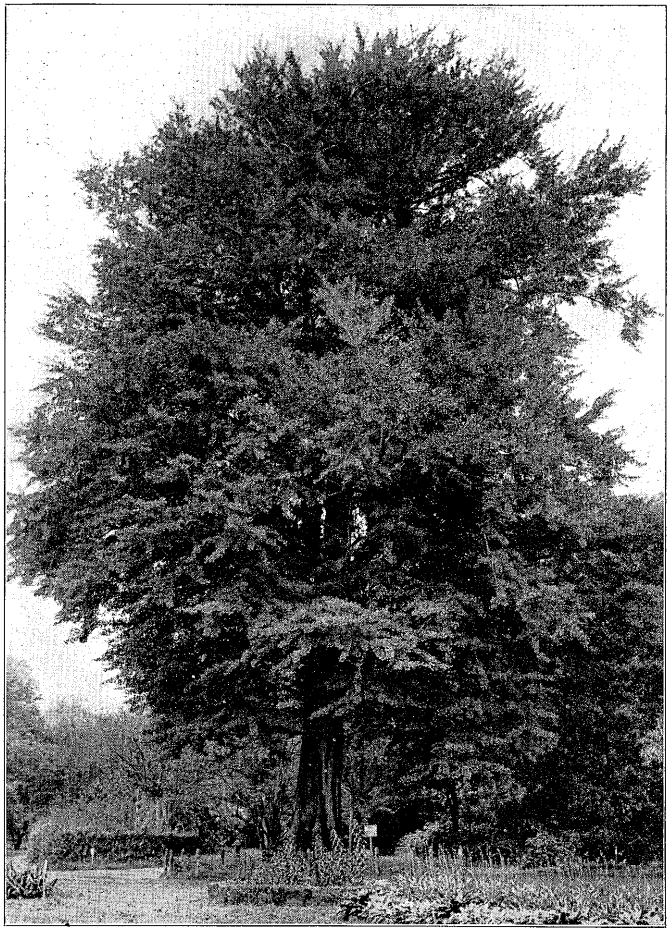
○公孫樹（いてふ）ノちち

向坂道治

大公孫樹ヲ仰ギ見ルト誰レデモ氣ニツクモノハソノ乳（ちち）デアル、試ニ東京麻布ノ善福寺ニ行ッテ見レバ他ノ植物ニ見ナイ一種異樣ナ珍奇ノモノガ幹枝ノ其處彼處ニ垂下シテ居ル卽チソレガ所謂ちちデアル、始メテコノ乳ヲ植物學的ニ研究セラレタノハ今ヲ距ル三十四年前卽チ明治二十八年十一月二十日發行ノ植物學雜誌第八卷四百四十頁カラ四百四十四頁ニ亙リ英文デ寫眞版附キデソノ論說ヲ發表セラレタ東京帝國大學理學部植物學教室ノ藤井健次郎博士デアッテ其論題ハ On the Nature and Origin of so called "Chichi" (Nipple) of Ginkgo biloba, L. (Preliminary Note.) デアル、今ソノ論文ノ摘譯ヲ左ニ錄シテ參考ニスル

「いてふガ現植物界ニ於テ只獨リ奇異ノ觀ヲ呈スルコト恰モ他國人ノ如シトハ學者ノ旣ニ認定スル所ナリ、

其ノ種々特點ノアルガ中ニ彼ノ乳房ノ如キハ敢テ他ニ見ザル所ナリ、此乳ノ性質發生等ニ就テノ研究ニヨレバ乳ハ老木ニ多クシテ枝ヨリモ幹ヨリモ又根ヨリモ生ジ或ハ人工的ニ之ヲ生ゼシムル事ヲモ得ベシ、其解剖上ノ構造及其習性ニ於テハ概ネ所謂木瘻（Maserkropt）ト一致ス故ニいてふノ乳ハ木瘻ノ特別ノ形ニ他ナラズ、而シテ之レヲ Masercylinder 又ハ Cylindermaser ト名ケタリ、其ノ發生ノ初期ハ只一ノ不定芽ニヨル事アリ又數多ノ不定芽ノ形成ニヨルコトモ



東京小石川植物園ノいてふノ樹（曾テ平瀬作五郎氏ガ樹ヲ研究セシ精蟲ヲ發見セシ樹）
（船曳撮影）

東京小石川植物園ノいてふ樹（雌木）ヨリ採リタル乳（1/2 大）

アリ又發育ヲ害セラレタル短枝及其ノ短枝ヨリ發育シタル潛伏芽ニ起因スル事モアリテ其形成ハ何レモ極部養料過分ノ徵候ヲ呈シ又極部ノ壓力減少ノ徵候ヲモ呈スル事多シ」

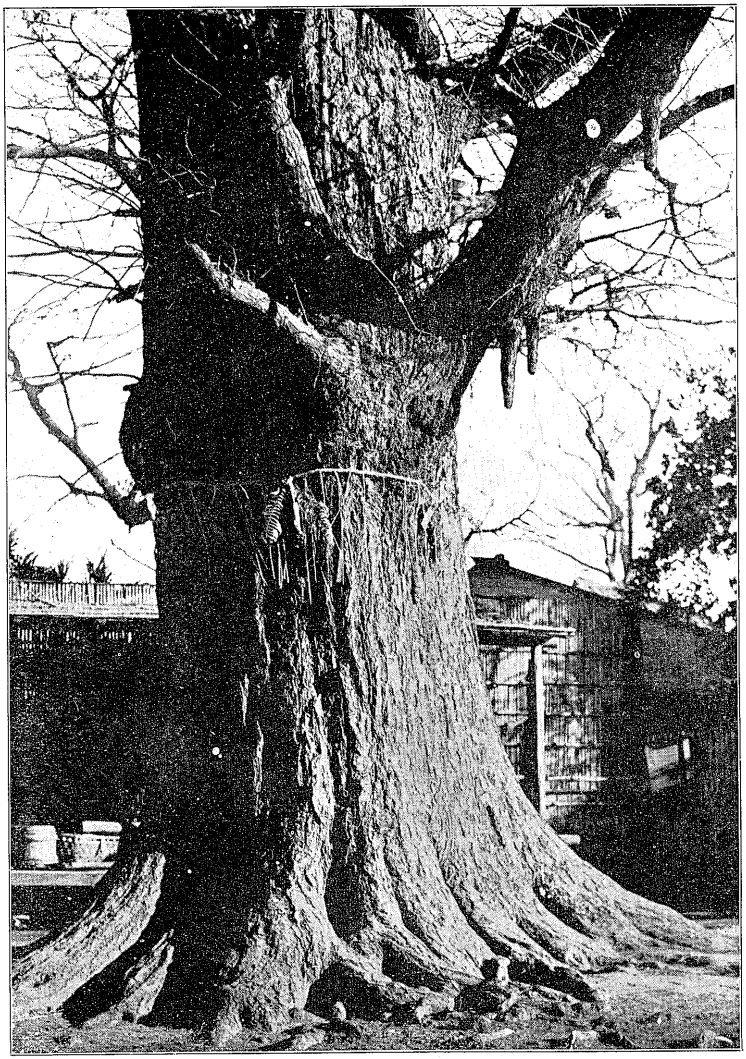
藤井博士ハ東京附近以外ニ更ニ例ノ甲州身延ナル下山村ノ本國寺ニ宿泊セラレテ此處ノいてふノ乳ノ生長ナドヲモ研究セラレタ事ナド色々トソノ當時ノ話ヲ其後右ノ寺ノ住職秋山師カラ私ニ聞カサレタ、私モ藤井先生ノ下デ大正八年カラ公孫樹ノ外部形態ヲ研究シ乳ヲモ觀察シタ、其時分ニ東京小石川ノ帝大植物園内デ彼ノ精蟲發見ノ謂ハレ付キノ公孫樹ニ登ッテソレニ出テ居ッタ乳ヲ鋸デ切ッテ居ル所ヲ忽チ當時同園ノ主任デアッタ中井猛之進博士ニ見付ケラレ注意ヲ受ケテ大ニ恐縮シタ事ガアッタガ顧ミレバ早ヤ已ニ十年前ノ思ヒ出デアル、私ハ處々方々ノ公孫樹ノ乳ヲ觀察シタガ別ニ藤井博士ノ研究ノ範圍ヲ出ヅル事ガデキンノデ新ニ論文

公孫樹（いてふ）ノちち

（木雄）ふていルスス有ヲ乳ル在ニ内境寺福善布麻京東

トシテ書ケナイデ恥カシイ次第デアルガ兎ニ角公孫樹ト云フト直グ乳ノ事ヲ世人ニ聽カレルノデ藤井博士ノ三十四年モ昔ノ御研究ヲ極ザットソノ儘書テ此處ニ列載シタ寫眞ノ參考ニシタ此處ニ掲ゲシ寫眞ノ内東京麻布善福寺ノハ乳ガ數多叢垂シ向地性ヲ

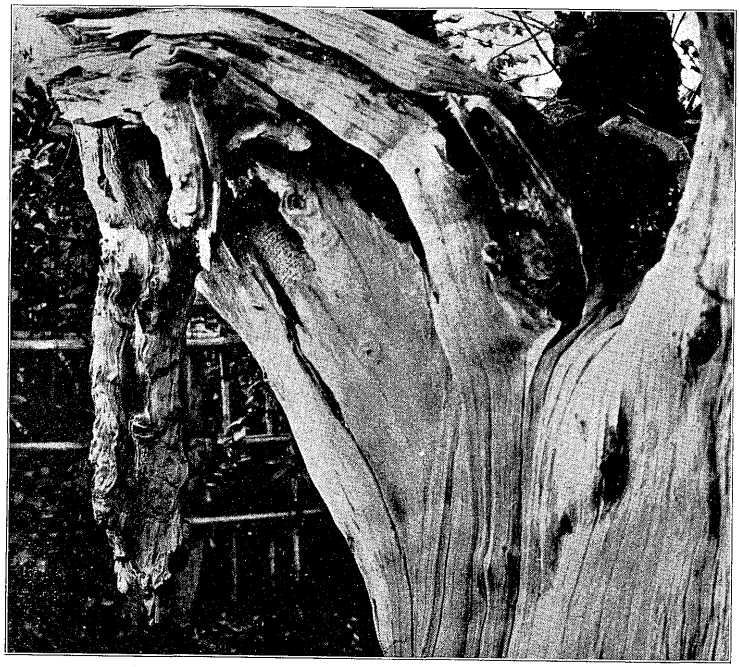
公孫樹（いてふ）ノちち



東京雑司ケ谷鬼子母神社境内、子育だていてふ（雄木）

（昭和四年四月一日撮影）

ヨク現ハシテヲル、江戸名所圖會ニ據レバ親鸞上人ガ當寺ノ了海師ニ附法シ去ルニ臨ミテ携フル杖ヲ地ニ挿シテ曰ク「念佛ノ弘法凡夫ノ往生モマタ是ノ如キカト云々」然ルニ此ノ杖忽チ根芽ヲ逆ニ生ジ竟ニ枝葉繁



乳タレ枯ノふていてふ内境寺養安村郷六郡原萑州武

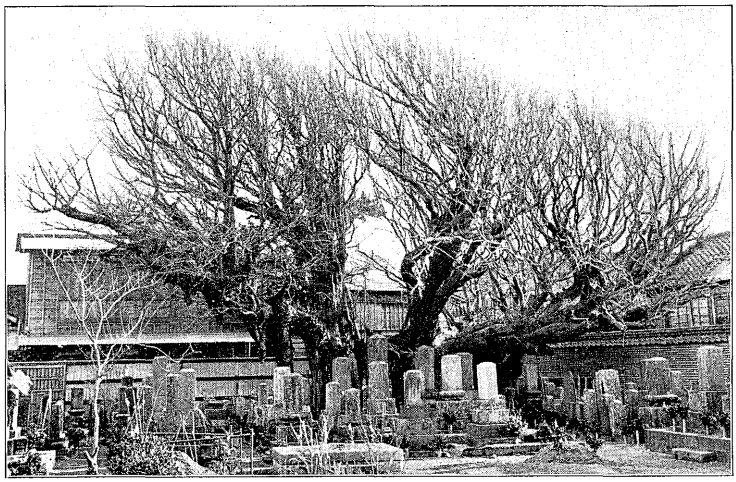
茂シテ蒼々タリ故ニ逆さいてふト號クトアルガ卽チ此ノ樹ニシテ此ク親鸞ガ挿セル杖ノ生長セルモノナリト云フノデ又杖いてふトモ稱スル

東京雜司ケ谷鬼子母神社境内ノ公孫樹ハ俗ニ子育だていてふト云ヒ乳ニ對シテ非常ナ迷信ノアル木デアル

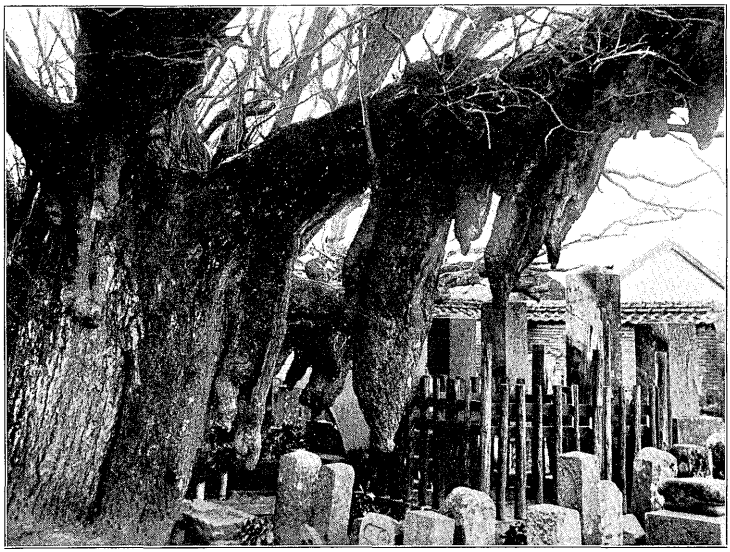
武州萑原郡六郷村古川藥師ノいてふハ小石川植物園ノ室田老樹齋氏ヨリ承ッテ安養寺境内ニ觀察シタ、惜シイ事ニハ六郷川堤防工事ノ爲メ移植シタノデ最早ヤ半枯レノ狀態デアッタ、然シ長大ナル乳ハ往々地ニ入リ長サ一丈八尺位ノモアッタ、寫眞ニ撮ッタノハ全ク枯レタ乳デアルガ先端部ノ不定芽ノ摸樣ガヨク見ラレルノデ頗ク面白イ、コノ樹モ古來有名デ江戸名所圖會ニハ堂々ト載ッテヲル、光明皇后皇子御誕生ノ時ニ御乳祈願ノ爲メニ植エラレシ由デ德川時代ニモ樹木伐取ヲ禁制サレテアッタ名樹デアル、左ニ「古川藥師略緣記」ヲ揭ゲル

夫當山は人皇四十三代元明天皇の御時行基菩薩關東に來化な

公孫樹（いてふ）ノちち

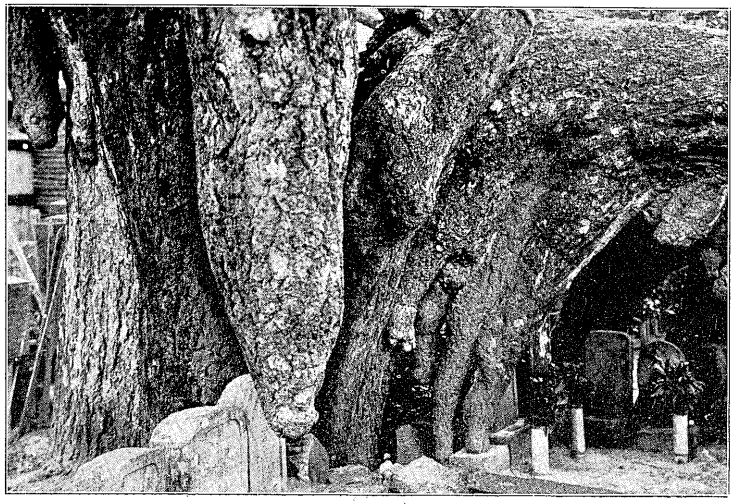


房州勝浦町高照寺ノ乳いてふ（北方ヨリ望ム）
（昭和四年一月十六日撮影）



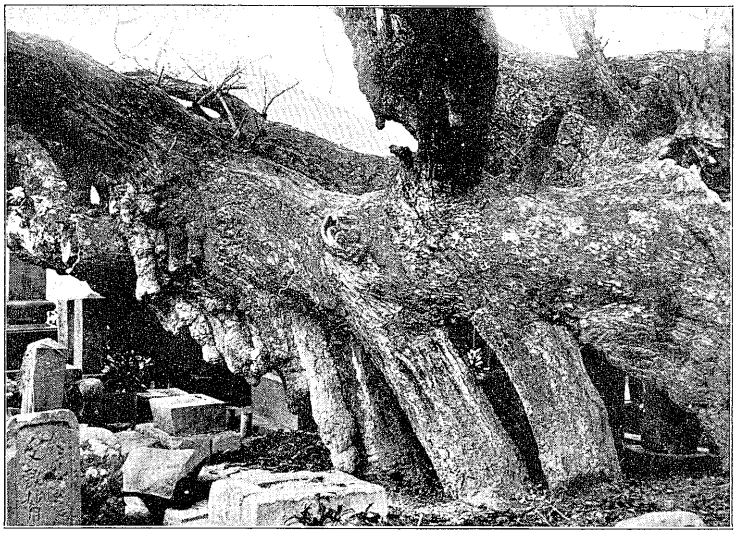
同　上（東南ヨリ見ル）
（同　上）

らしむるの頃和銅三庚戌年此地にいたり今安置奉る處の藥師如來釋迦如來彌陀如來は一木三體にして行基菩薩一刀三禮の御正作也然に庭前銀杏靈木は天平五癸酉年聖武天皇の御后輪王の太子御誕生ありといへども御乳味不足なるや御歎有し時或夜の瑞



同　上　（東方ヨリ見ル）

（同　上）



同　上　（西南ヨリ見ル）

（同　上）

夢に武藏國玉川の邊り古川の里子育の藥師尊像へ一心に祈願をなさしめば御乳味滿足たるべしと告給ふ故即時に宣旨を下し御祈願なされしかば忽御乳味滿足して太子速に御成長あらせられしによつて帝叡感淺からず當山伽藍を御建立なさしめ醫王山安養

寺世尊院ノ三號を下し給ひしより則靈地となりしかのみならず后宮より庭前左右へ銀杏ふたもとを御奉納あり其枝葉今に繁茂して自然と乳房の形を生ず凡年暦千二百餘年の靈場たり因て乳味不足の輩は藥師瑠璃光佛へ祈願をこめ一七日精進し中三日の間に御供米粥にして頂戴せば乳味滿足たるべし就中世に子なき人は夫妻共に此尊像をひとへに祈らば子孫の幸福を榮ふべし故に懷姙の輩は當山如來の靈符を頂戴して仰信ずるものは難産の患へを除き母子安全たること尊像の御誓願にて諸人衆病悉除の利益を得給ふ事疑て算ふべからず依之本緣記の要領を傳へて爰に顯はしあぐるもの也

武州荏原郡六鄕領　　醫王山安養寺

房州勝浦町高照寺ノ乳いてふハ其ノ乳ノ偉大ナルコト他ニ比類ナキ木デ、此ハ牧野先生ヨリ御話ガアッテ本年一月十六日ニ同博士ニ隨伴シテ同處ニ出掛ケ觀察シタ寫眞デ全形ト部分的ノトアル、樹ノ全體ハサホド偉大デハナイガ其ノ乳ノ巨大ナルニハ一驚ヲ喫シタ、ソシテ上ニ述ベタ善福寺ノ公孫樹ノ乳ナドトハトテモ比較ニナラナイ大サデ、コノ寫眞ヲ撮ル爲メニ邪魔ニナル臺碑ヲ牧野先生ト協力シテ二十餘リモ取片付ケ三時間ホド寺內ノ佛樣ヲ驚カシタ騷ギヲシタ（勿論住職ノ許可ノモトニ）

一般ニ公孫樹ノ乳ハ外觀全ク樹幹ノ樹膚ト異ヒナクソノ先端ハ尖ッテ圓柱狀ニ下垂スルハ丁度石灰洞ノ鍾乳石ノ觀ガアッテ如何ニモ幹部ノ養分ガ極部的ニ過剩ニナリポタポタト滴ダリ垂レタ樣ニ見エル、實際乳ノ實質ハ柔カイ細胞デ過分ノ澱粉ヲ貯藏シテ居ル、而カモ雄木ニ多ク發生スル事ハ雌木ガ結實過多デ養分ヲ消費スルニ反シ雄木ニ養分ガ過剩シテ勢イ乳トナッテ垂下スルラシク考ヘラレル、然シ乳ニヨッテ雌木、雄木ノ區別ハ絕體的ニ出來ナイ其レハ雌木ニモ亦往々多乳ノ場合ガアルカラデアル畢竟乳ハ木ノ營養狀態ニヨッテ其ノ出來具合ガ左右サレルモノト考ヘテヨイト思ハレル

○仙臺ノ名木あふひノ大木

久內淸孝

一昨年ノ夏陸前靑葉城下ノ仙臺ヲ見物シテ歩キ、マグレ當リニ仙臺ノお靈屋ノ境內ニモグリコンデシマッタ境